

肢体不自由  
「コミュニケーションの指導・支援」

発表番号25 188e7219 濱田ユリカ

# 発表内容

- 1 児童の実態イメージ
- 2 学習指導要領における位置づけ
- 3 開発した教材
- 4 指導目標、評価基準
- 5 教材の材料
- 6 教材の作り方
- 7 使い方
- 8 教材を作る上で工夫した点
- 9 教材の改善点

# 対象児童の実態・イメージ

特別支援学校に在籍 肢体不自由児 女児

- ・体幹の機能障害により坐位又は起立位を保つことが困難
- ・指先は少し動く程度
- ・知的はあわせていない
- ・発声に関わる器官のまひや不随意運動などにより、コミュニケーションをとるのが困難
- ・進行性ではない
- ・食事は基本胃ろうだが、すり潰して口から少量食べることもある

# 学習指導要領における位置づけ

## 自立活動

### 6 コミュニケーション

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

話し言葉や各種の文字・記号，機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し，他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすることを意味している。

# 学習指導要領における位置づけ

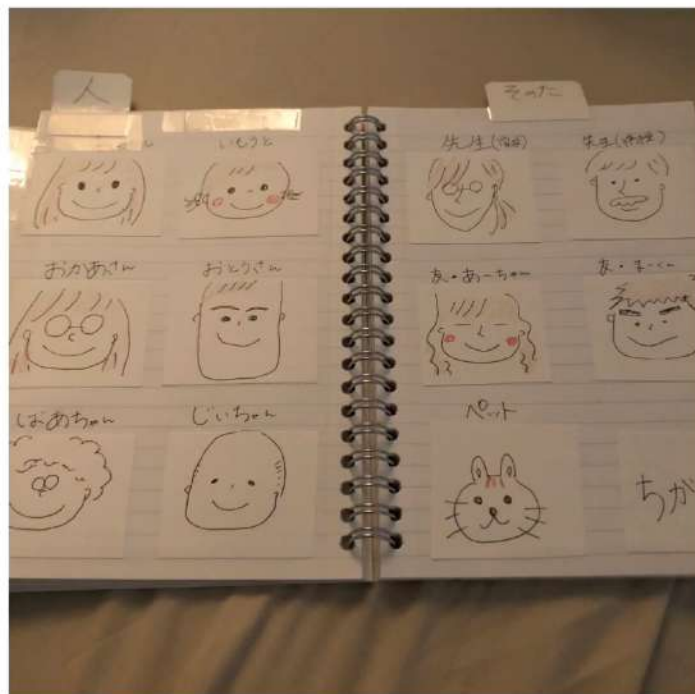
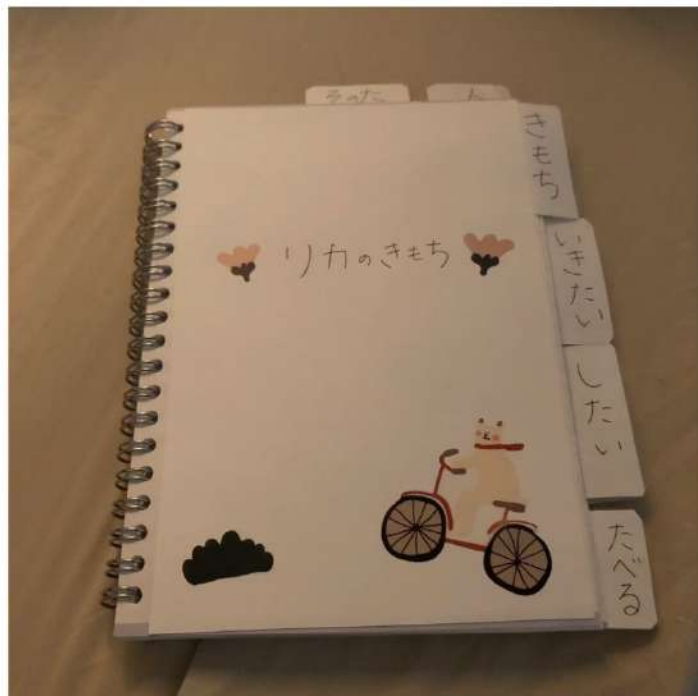
## 自立活動

### 6 コミュニケーション

肢体不自由のある幼児児童生徒の場合、上肢操作の制限から、文字を書いたりキーボードで入力したりすることが困難となる。そこで、画面を一定時間見るために頭部を保持しながら、文字盤の中から自分が伝えたい文字を見ることで入力のできるコンピュータ等の情報機器を活用し、他者に伝える成功体験を重ねることが大切である。

# 開発した教材

コミュニケーションブック リカのきもち



# 指導目標と評価基準

目標 目指せEGOISTリカちゃん

- 評価 ◎コミュニケーションブックを活用して、自分の力だけ（指先、または目線）  
意思表現ができる  
※時間はどれだけかかってもかまわない、要求があるまで支援は行わない
- こちらの語りかけを利用しながら、コミュニケーションブックを使って  
意思表現を行うことができる

# 教材の作り方

## 準備するもの

- ・色鉛筆
- ・ハサミ
- ・ノリ
- ・テープ
- ・ボールペン
- ・手のひらサイズのノート
- ・白い画用紙

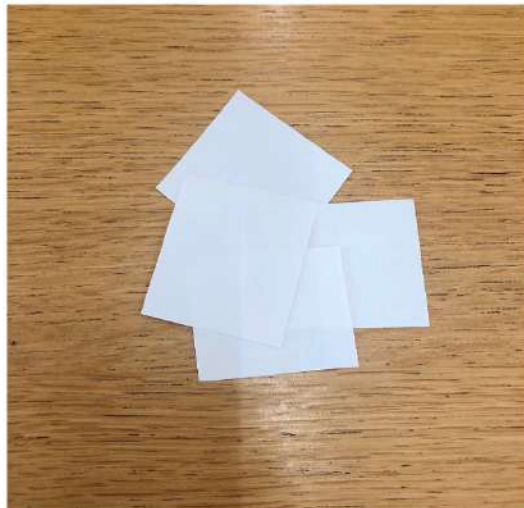




# 教材の作り方

## 手順

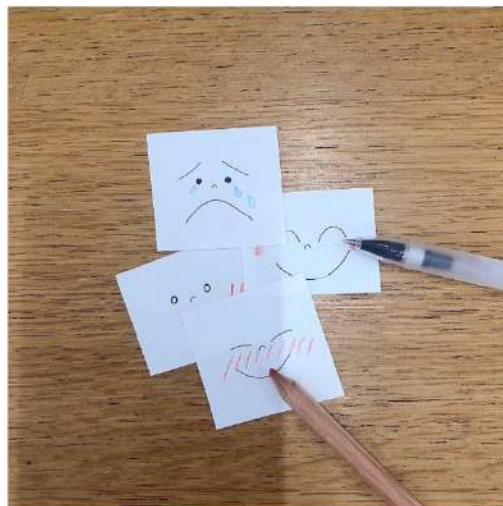
画用紙を適当な大きさに切る



# 教材の作り方

## 手順

切った画用紙に気持ちなどをボールペンと色鉛筆を使って描く



# 教材の作り方

## 手順

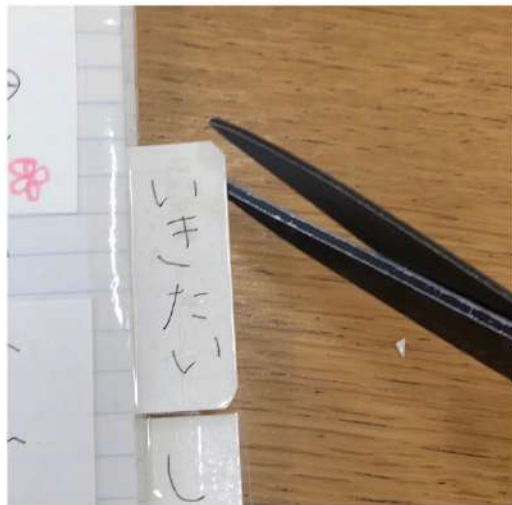
なるべく画用紙同士を離してノートに貼る



# 教材の作り方

## 手順

画用紙でラベルを作る  
角が尖ると痛いのでハサミで切り落とす



# 教材の使い方

# 教材の工夫した点

- ・視線を使ったり、僅かしか動かない指を使って使う本なので、示す絵同士をなるべく離れた。  
6個以上にはしないようにした。
- ※ご飯は少し小さいイラストを使ったので8個貼りました
- ・ラベルも大きく作って、めくりやすいようにした
- ・ノート1枚は薄く破れやすいしめくりにくいので、4枚ずつ重ねてテープでとめ、1ページを分厚くした

# 教材の改善点

- ・色を選ぶページがあるが、色を沢山入れようとして、色どうしの間隔が狭すぎてしまった
  - 👉色だけのページを作る
- ・寝返りをうちたい、耳かきをして欲しい、など実際私が使ってみると要求の表現が足りなくて困った
  - 👉要求専用のページを作る
- ・表現で追加したい場合、ノートなので追加できない
  - 👉ルーズリーフ型の手帳のようなノートにする